



【健康で笑顔に】

私は両親の介護生活を、18年間やってきました。今回痛感した私だから、健康診断は大切に考えておくべきだと思いペンをとりました。健康だからできる介護も、介護側がダウンすると介護が出来ません。介護側がダウンする前に、そのサインを早く察知して対処するために、がん検診などの定期診断を受診して、健康状態をチェックすべきです。

私は以前から、何度か大腸がん検診で、潜血反応があり、大腸がんの疑いがありました。しかし、父の施設、母の病院と2か所を動き回り介護する日々が続いており、私には直腸鏡（大腸内視鏡検査）をする時間を確保する余裕はまったくなかったのです。

数年前に両親を見送り、その中で、応援してくれた主人も胃がんが原因で他界しました。自分の健康について見直す時間ができ、精密検査を受けたところ、S字結腸がんが見つかりました。がんはリンパ節まで転移していました。すぐに腹腔鏡手術を受けました。

その後半年ごとに検査を受けていますが、今はまったく検査結果にも異常がないほど元気なのです。自分の健康にこそ、介護生活をしている人には、がん検診の大切さ知ってほしいのです。自分の体調の異変を早く察知するために検診を受け、検診でがんの疑いが指摘されたら、必ず受診をしてください。

60 歳代 女性





【がん検診を受けてよかった！】

1988年9月下旬の頃、食後15分位して胃が痛み、排便時、下血で便器が赤く染まり「うさぎ」のフンのような小さなコロコロの便が数個。

ある日の昼食では食欲がなく、2分の1個の「りんご」を完食することが出来ませんでした。帰宅時、途中にあるA病院を訪れて受診し、病名は「胃潰瘍」と告げられました。1週間は毎日注射と内服、その後内服を1年位続けました。

1年経って、症状が改善しないことから、私は、「どこか、別の病院を紹介して下さい。」とA病院の医師にお願いをし、紹介状を持ってB病院に行きました。A病院とB病院の医師が治療について相談をしてくださり、その後、私はB病院に通院することになりました。

1か月くらい経った頃「大腸内視鏡検査」を受検しました。ポリープが数個ありました。組織の検査はいたしませんでした。結果は経過観察との事でした。それから、1年後、再度、「大腸内視鏡検査」を受けましたが、異常はありませんでした。B病院にはその後も定期的に通院しており、医師や看護師さんには何でも相談ができる関係が出来ました。私は、定期的に市の健診を受診し、大腸がん検診の「検便」をしています。今年は大腸がん以外のがん検診も受ける予定です。

自分の体のことは自分しか分かりません。体に異常が現れる前に、早め早めの受診で自らを守りましょう。

70 歳代 女性





【がん検診を受けてればよかった】



昨年6月のある朝の朝食後、突然吐き気におそわれ、もうこのまま死んでしまうのかと思うくらい吐いて、吐いて、頭も宙に浮いて、ぐるぐるとまわっています。主人の声にも返事ができない。

30分位して、やっと主人の声が「救急車をよぼう」と言っていることが分かりました。

もし救急車をよんだら、町内の人達が皆家かけよってくる。今まで元気印で病気といっても誰も信じないくらい元気な日々で、ボランティアに走り回っていましたので…。

やっとの声で「救急車はダメ。病院に。」と伝えて抱え込まれるようにして病院へ行きました。

病院に入るなり、私のあまりの顔の青さに看護師さんから「すぐベットに」と言われ、すぐ点滴をして血液検査をしていただき、少し休んでよくなったので、1週間後に来てくださいと言われて帰りました。1週間何も無かったように日々過ごしました。

1週間たったので病院に行きました。医師から、鼻から管を入れて調べると言われ、今まで何もしたことない私が「イヤですコワイです。」と言ったら、「大丈夫」言って、麻酔をされ、管を入れて調べたようです。

目が覚めた時、医師3人と主人がいて、モニターに映し出された映像で、「いたいた、これは手術をしましょう。」と言われ、昨年7月に入院、すぐに手術でした。

入院したことのない私は大変でした。身体中管と点滴の針。本当にがん検診を甘く考えていた、私の大きな大きな過ちでした。自分の健康を過信し、県民共済保険も何十年も掛けていたのに、6月に「もう大丈夫」とやめてしまい、大変なことでした。でも、高額療養費制度に本当に救われました。

主人にも大変な迷惑をかけ、周りの方々にも申し訳なく、本当に自分のような人、一人も出て欲しくない。過信は絶対危険です。がん検診を甘くみないで。是非、是非おすすめします。





【ガン検診を受けてよかった】

私は81歳の誕生日を迎えたばかりの今年1月、手術のため市内の総合病院に入院した。

入院は、若い時の虫垂炎の手術以来である。病気は大腸ガン。全く自覚症状がないのにガンと分かったのは、毎年受けている福山市の健康診断によってである。診断の1つである検便による「便潜血反応検査」が陽性だったため、肛門から内視鏡を大腸内に送り込む「大腸内視鏡検査」で大腸ガンが見つかった。

手術前、心臓・肺など体の状態が徹底的に調べられた。当日は午前9時に手術室に入り、麻酔から目が覚めたのが午後1時前であった。手術は、傷が小さく回復が早いと言われる「腹腔鏡下手術」で行われ、術後2週間で退院できた。その後の検査で、執刀医が、ガンはステージ1（ステージ4が最も進行している）で、今後10年間、ガンが再発・転移する可能性は10%以下と言われた。

術後半年後の検査でも異常はなく、現在以前と全く同じペースで生活している。

80 歳代 男性





【私の大腸癌検診】

ドクターが云う 「明日はどう。空いているよ。」

私  「エッ、明日！（もう少し覚悟する時間が欲しかったな）
はい、明日。大丈夫です……。でも…エート…でも。
（エイッ！云っちゃえ） あの…トイレが心配なんですけれど。」

ドクター 「トイレはたしか六つ位あるから大丈夫。」

私  「そっちじゃなくて…検査中にトイレに行きたくなったら困ると。」

ドクター 「今まで、二千人位は診てきたけど、きいたことないなあ。」（困惑）

私  （ふー…。そうか。）
「緊張するとトイレに行きたくなるので心配なんです。」

ドクター 「それは心配でしょう。」（この一言で、半分安堵した）

私  「だって先生、あんなに大量の水飲んだら、絶対にトイレに行きたくなります。」（ちなみに私の主人は15年位前から時々検査を受けており、自宅で下剤をのんでいたこともあった）

ドクター 「それは大丈夫です。腸内を洗浄するための水なので、腸の方に行ってしまうので、膀胱には行かないからね。それに検査の時間は三十分位なので、大丈夫でしょう。」

私  （そうか。でも主人はずっとこの前この病院で一時間半かかっても腸の入口まで届かず中断して帰ったことがあった。）
「三十分位なら大丈夫だと思います。解かりました。」
（三十分が頼りである）

今まで、子宮癌の検査は何度か受けていた。でも大腸癌の検査は絶対嫌！検査中のトイレが心配だった。今回、便に潜血反応があり、かかりつけの先生から強く云われて押問答の末、仕方なく紹介状を貰った。当日は半分眠っている間に終わり、自分の腸の動画を見られなかったのは残念だったけれど、トイレは大丈夫だった。もしかしたら、私と同じ思いの人がいるかもと思い、筆をとりました。

